

森のかおりと水源の町 宮崎学区

MIYAZAKI



未来の宮崎へのメッセージ



青い目の人形と宮崎小の子どもたち

● **野鳥が育つ環境。それが宮崎の自然**
名前や鳴き方を覚える野鳥検定で、自然の大切さを学んできました。(宮崎小：橋本あこさん)

● **自然を楽しみながら遊べるくらがり渓谷**
秋になるともみじがきれい。バーベキューやマスカみもできるよ。(宮崎小：山口順行くん)

● **岡崎で一番高いところは本宮山**
山頂で見る日の出がとてもきれい。富士山も見えるよ。(宮崎小：白井敬二くん)

● **伝統文化を後世に残そう**
嫁獅子神楽で一番長く受け継がれた「千万町神楽」、大代町・雨山町の「事始め」などの伝統文化を守っていきます。(宮崎小：荻野笑歌さん・林仁衣菜さん)

● **村が3軒になるまで伝統の神楽を続ける**
合言葉のもと、若者が頑張って伝統を守っていることを誇りに思う。(雨山町：清水力さん)

● **宮崎だけの特別なお茶で地域をつなごう**
宮崎のお茶は無農薬ですごい。お茶を通して地域が繋がればいいな。(宮崎小：竹下巴さん・岩月乙女さん)

● **原点は、ふるさとにある**

新聞配達をして中学2年生の時に買ったカメラ。これがぼくの原点。(宮崎学区出身：写真家/竹内敏信さん)



● **青い目の人形を受け継いできた誇り**

少しいたんですが、これこそが戦争を乗り越えた証なのです。(宮崎小：山田友和くん・三宅莉瑚さん)

● **大切なものを未来に引き継ぎます**

昭和2年、アメリカとの友情の証に日本へ。ほとんどの仲間は戦時中に燃やされたり、竹やり訓練の標的に。でも、宮崎小の私は守られました。(青い目の人形：コルモデル)



● **隠れた穴場スポットがふんだん**

作手高原の稜線から顔を出す中秋の名月には、思わず感嘆の声。(石原町：菅沼弘さん)

● **年を重ねるほど思い出すもの、それがふるさと**

紅葉や楓を植えて、三河一のモミジ街道にしたいなあ。(宮崎学区出身：俳優/平泉成さん)



編集後記

岡崎市には、都市部と山間地・水源地がコンパクトに同一市内に隣接しているという全国的にも稀な特色があり、宮崎学区には、『伝統ある宮崎村の森林整備が岡崎の水源をつくっている』との自負があります。

宮崎学区は、未来に向けて豊かで暮らしやすい町を目指すとともに、森のかおりと水源の町として、岡崎市民にやすらぎの自然と安心を提供していきます。

〔作成委員会〕 佐野邦明/岩倉伸祥/藤井正志/平木教男/加藤喜弘/荻野欽司/平松伸一/梅村隆敏/権田二三男/杉浦傑/荻野保吉/菅沼弘/林修/林正樹
〔参考資料〕 宮崎村誌/額田町史/ふるさと読本ぬかた
〔協力〕 宮崎小学校、岡崎森林組合、茅葺きの里フォトコンテスト

〔表紙写真〕 宮崎小茶つき会、清流での水遊びとアユつかみ、万足平の猪垣など宮崎学区の印象的な風景



3 統合された現在の宮崎小学校（平成28年）

2 宮崎中学校（昭和47年当時）

1 計画的に植林、管理された森林

△これら3枚は昭和2年に撮影にされたもので、『愛知県小学校概況』（宮崎小学校蔵）に掲載されている

宮崎のなりたち

戦国時代

江戸時代後半

- 一八七三年 ■ 明治6
- 一八七四年 ■ 明治7
- 一八八四年 ■ 明治17
- 一八八五年 ■ 明治18
- 一八八七年 ■ 明治20
- 一八八九年 ■ 明治22
- 一八九二年 ■ 明治25
- 一八九四年 ■ 明治27
- 一八九五年 ■ 明治28
- 一八九九年 ■ 明治32
- 一九〇四年 ■ 明治37
- 一九〇六年 ■ 明治39
- 一九一八年 ■ 大正7
- 一九二一年 ■ 大正10
- 一九二七年 ■ 昭和2
- 一九四一年 ■ 昭和16
- 一九四七年 ■ 昭和22
- 一九五六年 ■ 昭和31
- 一九六二年 ■ 昭和37
- 一九六九年 ■ 昭和44
- 一九七二年 ■ 昭和47
- 一九九一年 ■ 平成3
- 一九九七年 ■ 平成9
- 二〇〇六年 ■ 平成18
- 二〇一〇年 ■ 平成22

宮崎各地が奥平氏と武田氏との戦いの舞台となる

宮崎各地に猪垣が作られる
宮崎各地に野仏が作られる

石原村の市場に仮教場を置く
（宮崎小のはじまり）

正泉寺、東向寺に仮教場を置く
（大雨河小、千万町小のはじまり）

石原、明見、雨山、河原、千万町で
初等教育が始まる

宮崎郵便局ができる

宮崎駐在所ができる

7村が合併し、宮崎村となる

石原、明見、雨山に尋常小学校ができる

大雨河尋常小学校、千万町尋常小学校ができる

宮崎村で山焼きが廃止され、
全国の模範となる組織的な植林が開始される…1

宮千消防組（宮崎消防団の前身）ができる

宮崎茶の最盛期

宮崎村に千万町と木下きくだしが加わり、今の学区区域ができる

宮崎産業組合（宮崎農協の前身）ができる

乗合自動車（バス）が
岡崎—亀穴間を通い始める

アメリカから日本の子どもたちに
青い目の人形が贈られる

宮崎尋常高等小学校が
宮崎国民学校となる

宮崎国民学校が宮崎小学校となる

宮崎中学校ができる…2

昭和の大合併で4村が合併し、
額田町が誕生する

宮崎保育園ができる

本宮山とくらがり溪谷が
県立自然公園となる

額田地域の4中学校が統合され、額田中学校ができる

宮崎診療所と額田南部工業団地ができる

雨山ダムが完成する

平成の大合併により新岡崎市が誕生する

千万町小学校、大雨河小学校が閉校し、宮崎小学校に統合される…3

みんながおいしいと言ってくれる
宮崎のお茶は、私たちの自慢です。
小学校の茶つき会も楽しみです



愛知の小学校に贈られた349体のうち9体のみ
が残り、そのうちの1体が宮崎小の
コルマデルです



青い目の人形の歓迎式

DATA

□人	1,241人
□男性	615人
□女性	626人
□世帯数	504世帯
□面積	58.70km ²

[2016年7月1日現在]

宮崎の起源〜戦国時代

木下町や雨山町から石器が見つかっていることから、このあたりには大昔から人々が住んでいたことがわかります。

戦国時代には、信州から三河に攻め入る武田軍の通り道だったため、各地に古戦場があります。また長篠の戦いで岡崎まで援軍を呼びに走った鳥居強右衛門は、このあたりを通ったと言われています。

山あいの風土を 生かした宮崎茶

宮崎茶の歴史は、戦国時代にまでさかのぼり、宇治茶の系統をひくものとされています。最盛期の明治37年には県下第2位の生産量があり、たくさん輸出されていました。霧の多い山間の穏やかな日差しと、男川の清らかな湧き水で育った良質の宮崎茶は「岡崎茶」としてペットボトルでも販売されています。

三河のシルクロード・ オアシスの町

まだ県道が整備されていなかった

昭和の初めごろまで、町から生活物資を運んできた馬車と奥地の産物を背負って下りてきた牛馬とが出会うこの地は、物資の中継地として賑わいました。最盛期の明治30年代には、日に60頭もの牛馬が下りてきたことです。中心部の亀穴には、20軒の間屋をはじめ、医者、歯医者、映画館、宿屋などもありました。

全国に名を馳せた林業の町

明治半ばまで全国各地で山焼きが行われ、山が荒廃していました。宮崎村初代村長の山本源吉は、村の発展は山焼きの廃止と植林にあると判断し、全国に先駆けて積極的に植林事業を推進。「村は法人であり、村有林は親である」との合言葉のもと、宮崎村は、全国でも有数の美林を誇る豊かな村になりました。

宮崎村初代村長 山本源吉



宮崎小学校蔵



植林された当時の宮崎村有林（明治43年）。明治136年度までの詳細な造林計画があった

森のかおりと水源の町

宮崎学区村じまんマップ

太古からの自然と整備された森林が共存する宮崎学区は、乙川と男川の水源の町。戦国時代には奥平氏と武田氏が互いにせめぎあった歴史の舞台でした。



A 千万町の野仏
主に江戸時代に作られた石仏が集められている



B 巴山(ともえやま)
三河・宝飯・加茂と3国の交わる、男川、豊川、矢作川の分水嶺。写真は山頂付近からの眺め



C 本宮山
標高789m。西に岡崎市街地、眼下に東三河、はるかに南アルプスや富士山が一望できる岡崎の最高峰



D 雨山ダム
市内東部に給水する、高さ21.5m、幅160m、集水面積2.6km²の生活ダム



貴重な自然と共に生きる

男川の源で本宮山の登山口でもあるくらがり渓谷は、宮崎学区の自然を象徴する場所。ここから山頂までは全て国有林で、針葉樹、広葉樹などの暖地性の天然林が貴重な植物群をなし、太古から変わらぬ豊かな自然が残されています。一帯は県立自然公園に指定されており、渓谷沿いの清流は西三河屈指の自然景観です。また、ハイキング、キャンプ、マス釣りなどを楽しむことができ、誰でも気軽に自然と触れ合えるのも魅力です。ほかに国の天然記念物であるネコギギの生息地をはじめ、春



ミツマタ群生地...E



くらがり渓谷...F

に黄色い花をつけるミツマタ群生地、2000kmを旅するアサギマダラ飛来地など、希少な自然のスポットが点在。山里の茶畑にウスバシロチョウが舞う光景も宮崎ならではの景観です。

滝山合戦と田原坂合戦(1573年)

作手方面から滝山城(亀穴城)へ五千余騎の武田軍が押し寄せました。奥平軍は激戦の末これを撃退し、田原坂に追いました。武田軍は、ここでもたくさんの犠牲者を出して撤退しました。滝山合戦の古戦場は残された足跡から「万足平」と呼ばれています。村人は「三ツ石」という塚を作り敵味方なく犠牲者を葬りました。



滝山合戦古戦場と滝山城を万足平の猪垣から望む

宮崎学区のたからもの

ふるさとの文化や自然を大切に

猪垣が伝える先人の心

田畑を猪や鹿から守る 換算して約20億円。すべて猪垣は関東以南の各地にあります。宮崎地域のもものは総延長が約50kmもあり、全国的にみても特に立派です。総工費は現在の価値に



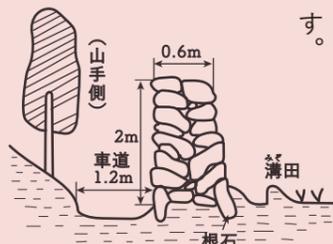
猪垣の修復作業
築造当時子どもから年寄りまで村中総出で作業をしたという記録があります。

猪垣を守り

引き継ぐ

宮崎には「領家片麻岩」という平らな石がたくさんあることも猪垣が発達した理由です。保存状態の良い延長612mの「万足平の猪垣」は、県の有形民俗文化財に指定されています。

「万足平を考える会」と宮崎小学校が共同で保存活動を行い、地域を愛する心とともに後世に引き継いでいます。



猪垣の構造
猪垣はこんな工夫されたつくりをしています



幸せを引き寄せる嫁獅子と才威の舞

千万町神楽を
引き継ぐ

千万町町の八剣神社大祭に豊作と悪魔祓いの願いを込めて奉納される神楽です。大正時代に途絶えかけましたが、地元有志が安城の神楽を学んで再興。現在は千万町神楽保存会がその伝統を受け継いでいる県の無形民俗文化財です。

愛鳥活動で
自然共生の心を育む

宮崎小学校では教育の柱の一つに「愛鳥活動」をすており、何度も文部大臣賞や環境大臣賞を受賞しています。子どもたちは親子探鳥会などで野鳥と親しみ、そこから自然との共生を学びます。40年以上続いているこの教育活動は、学区民の自然を愛する心の基盤となっています。



親子探鳥会

ふるさとの未来を創り出す活力

閉校後の学校跡地を交流拠点に

旧千万町小学校は改修されて「千万町楽校」となり、音楽会や自然体験など、年間を通じた市民との交流の場となっています。

旧大雨河小学校は「みつわ広場」となり、地元民の交流の場として中山間地域の拠点となるような活動が始まっています。

宮崎発祥の
ウッドカーリング

スポーツ推進委員が地元の木材を活用するために編み出した、誰でも手軽にカーリングが楽しめる新しいスポーツ。2チームが交互に「ウッド玉」を滑らせて得点を競います。ルールはカーリングと同じ。体育館でプレイできる気軽さが受け、愛好者も増えています。



宮崎学区ウッドカーリング大会



厚さ7cmの木材にベアリングをつけたウッド玉

くらがり
サウンドフェス

「未来を担う人と文化と地域のメッセージを発信すること」を指して、地元の若者が中心となって企画する手づくりの野外フェス。平成23年から回を重ねるごとに盛り上がりを見せ、平成27年は約3500人を動員。地域を活性化けるイベントとして注目されています。



若者たちの歓声が緑の溪谷にこだます



千万町楽校での交流餅つき大会



みつわ広場での森の休日学校